



令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 北海道共同募金会

目 次

I 共同募金事業

1. 事業概要 1
2. 計画（目標額）並びに募金実績・助成
 - （1）一般募金の計画・実績・助成 2
 - （2）歳末たすけあい募金の計画・実績・助成 3

II 本年度の主な広報事業

1. 「赤い羽根サポーター宣言」事業
 - （1）道内スポーツチームとのタイアップ 4
 - （2）漫画家とのタイアップ 6
2. 「piapro」とのタイアップ「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクト 6
3. “劇場版「鬼滅の刃」無限列車編”とのタイアップ事業 7
4. 株式会社ブシロードの協力による各種タイアップ事業
5. ヒカルさん×村上隆さんの協力によるコラボ事業
6. 各種イベント開催に伴う募金ブース設置・PR活動
7. 飲料メーカーとのタイアップ事業
8. ポスターの掲出 8
9. マスコミ等各種媒体を活用した広報事業
10. 各種啓発イベントの実施・関係機関団体への情報提供 9
11. 広報先発行事の実施
12. 市町村域での広報（募金資材の提供・広報資材の貸出）
13. ホームページによる情報提供

III 顕彰の実施

1. 本会会長表彰 10
2. 中央共同募金会会長表彰
3. 高額寄付者に対する厚生労働大臣感謝状
4. 共同募金運動功績者に対する感謝状

IV 緊急支援及び災害対応

1. 災害見舞金の助成 11
2. 災害被災地（道内外）への支援

V 各種民間福祉資金の総合調整

1. 共同募金以外の特定指定寄付金の受け入れ並びに助成について . . . 12
2. 寄託寄付金の受入れ並びに助成について
3. 公益信託助成金の助成について
4. 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業への協力

5. 日本テレビ24時間チャリティー委員会への業務協力

VI 会務運営（法人運営・専門委員会）

1. 法人運営	13
(1) 理事会・評議員会の開催	
(2) 評議員選任・解任委員会の開催	14
(3) 正副会長会議の開催	
(4) 監査（監事監査／外部監査）の実施	15
2. 専門委員会	16
(1) 配分委員会の開催	
(2) 広報企画委員会の開催	17
(3) 共同募金運動推進対策委員会の開催	
(4) 民間社会福祉資金要望事業推薦委員会の開催	
(5) 歳末たすけあい運動推進会議の開催	
(6) 公益信託運営委員会の開催	18
3. 共同募金委員会との連携強化と運営整備の促進	18
(1) 地方・市共同募金委員会事務局長連絡協議会の開催	
(2) 道内外への研修・連絡会、その他会合等	

VII 新型コロナウイルス感染拡大への対応

1. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う子どもと家族の緊急支援のための 全国キャンペーンへの取り組み	20
2. コロナ禍のもとでの共同募金運動に向けた取り組み	20

VIII 公告・公表等

1. 公告一目標額の届出、運動実績の公表	21
----------------------	----

はじめに

令和2年度の共同募金運動は、年初来から急速な拡がりをみせた、新型コロナウイルス感染症による未知の脅威のもと、手探りでの活動展開となった。

人と人との接触が大幅に制限される中、募金活動も従前同様の取り組みが困難となったが、地方・市町村共同募金委員会関係者の創意と工夫により、あまねく、たすけあい呼びかけられ、それに対し、また数多くの道民の温かな協力がもたらされ、困難の中にあって物理的に数えられる寄付金の価値以上に、道民の共有財産としての共同募金のはかりがたい価値をあらためて感じさせられた。

また、春以降、中央共同募金会と都道府県共同募金会との連携により、共同募金とはまた別に、コロナ禍のもとでの福祉活動を支援するための全国キャンペーンが展開され、その趣旨に賛同した多くの国民から寄付が寄せられるとともに、年間を通じて、それら各共同募金会による助成が行われ、衛生対応に心を砕きながらも、つながることをあきらめない、様々な福祉活動を応援する結果となり、地域の課題の存在と、その解決に向けて人々に協力を呼びかける、共同募金の持つ運動性があらためて発揮された情勢でもあった。

運動の開始に先立っては、中央共募によって全国共通助成テーマが設定され、「つながりをたやさない社会づくり」が全国で共有されることとなったが、これは単に助成にとどまらず、共募活動のいずれにおいても「コロナ禍」を意識しつつ、コロナ状況下においても、地域に対して行動することの大切さを訴えかける運動展開をはかっていくことを意味している。

道民から共同募金に寄せられた寄付金に関しては、前年額を大幅に割り込みながらも総額で7億円弱もの規模となり、社協、福祉団体、ボランティアグループ、福祉施設・事業所などにおいて、福祉車両の購入や障がい者の就労支援に必要とされる機器の購入、各種ボランティア活動の支援、歳末たすけあい見舞金など、全道で数千件もの事業に充てられ、幅広く活用されることとなった。

その他の民間福祉資金として、寄託寄付金の受け入れや公益信託の運用による助成、中央競馬馬主社会福祉財団助成事業の申請取りまとめと推薦業務など、各種資金の総合調整を行い、共同募金事業とあわせて本道の社会福祉の増進に寄与することとなった。

I 共同募金事業

1 事業概要

社会福祉法(第112条から124条)に規定されている共同募金事業は、「一般募金(赤い羽根募金)」と「歳末たすけあい」の2つの募金からなる民間運動として、毎年、10月1日に厚生労働大臣の告示により「共同募金運動」の期間が示された後、全国一斉に展開される。民間福祉財源確保(地域福祉推進)を目的として実施する、国内最大の募金運動である。

令和2年度の北海道における共同募金運動の期間は、令和2年10月1日～令和3年3月31日と定められているが、各市町村共同募金委員会での取り扱いは従前どおり12月31日までとし、以降の期間は北海道共同募金会本部(一部の市町村共同募金委員会を除く)において、道民に向けた広報活動を兼ねたイベント募金などを中心に運動を進めたが、新型コロナウイルス感染症により、募金活動にも少なからず影響を及ぼし、例年のような協力が得られにくい状況となり、全体の募金実績では前年度を大きく下回る結果となった。

共同募金運動を始めるにあたっては、道内179市町村それぞれの区域内の民間福祉事業に必要とされる資金計画を、用途計画(募金の使いみちの計画)として立案し、その集積を目標額として掲げることが、法律上義務づけられている。

これは、変貌していく我が国の社会経済情勢のもと、地域は様々な困り事を抱えるようになるとともに、課題解決のための活動に要する資金ニーズも高まりを見せている中、地域福祉の推進を目的として、住民相互のたすけあいを基調に、住民自らが参加する福祉コミュニティづくりへの参加を促し、だれもが住みなれた地域で安心して暮らせることができる社会を実現する多様な活動を、財源面から支援する役割を果たすための仕組みである。

募金実績が確定した後、目標額と差異が生じた場合には、あらためて個別の事業内容等を慎重に検討し、助成額を決定することとなるが、要望される福祉活動や事業の決定に際し、公平性・公正性を担保するため、道内各分野の有識者からなる「配分委員会」による慎重な審査や協議が行われている。

当該年度寄せられた募金はその年度中に助成先を決定することが義務付けられており、3月に開催の本会評議員会において最終決定がなされた後、本会、または市町村共同募金委員会を通じて、助成先に助成金の交付を行った。

2 計画(目標額)並びに募金実績・助成

計画(目標額)は、各地域の社会経済状況等を勘案し、必要最小限の福祉活動財源確保を図るべく、一般募金は、前期までと比較し約1.6%減となる、6億2,877万2,250円を設定し、歳末たすけあいは、『地域歳末計画』分として、前期までと比較し約2.4%減となる1億9,864万円の用途計画(目標額)を設定した。

募金実績は、本年度寄せられた共同募金(一般+歳末)の募金実績を合計すると、本年度の共同募金総額は6億9,845万7,099円となり、前年を4,845万8,163円下回る(6.5%減)結果となった。

また、本年度の共同募金助成総額(一般募金+歳末募金)は5億6,657万8,761円となり、前年を3,997万2,010円下回る(6.6%減)結果となった。

一般募金及び歳末たすけあい、それぞれの目標(計画)額、募金実績並びに助成実績は次のとおりとなった。

(1)一般募金の計画・実績・助成

一般募金の計画(目標額)として設定した6億2,877万2,250円のうち、全道を視野に入れた活動への支援を『全道・広域使途計画』分として、全体の約4割弱に相当する2億5,500万円(本会「配分委員会」において原案作成の上、「推進対策委員会」での協議を経たもの)、また道内の市町村地域内で展開される活動への支援を『市町村地域使途計画』分として、3億7,377万2,250円【共同募金委員会の「審査委員会若しくはそれにかわる機関」で共同募金使途方針並びに策定要領に基づき原案作成の上、共同募金委員会設置の理事会・評議員会の決議を経て、本会「配分委員会」で審査するもの】となっている。

使途計画は、『広域使途計画』～地域福祉推進事業;7,950万円、福祉団体・福祉施設支援事業;6,500万円、また緊急災害等支援事業;2,550万円のほか、共同募金啓発運営事業;8,500万円。『市町村地域使途計画』～社協事業;2億6,800万4,350円、福祉団体事業;4,899万円、福祉施設事業;417万円、このほか募金経費として5,256万5,900円から構成されている。

募金実績は、10月1日からの共同募金運動において、全道各地で約7万人を超える募金ボランティアの方々並びに協力団体・機関に募金活動に参画いただき、多くの道民、法人企業から総額5億1,422万2,339円の協力をいただいた。これは、前年比で5.2%減、一世帯あたりの金額にすると約185円という実績である。

募金方法別にみると、町内会等を中心に家庭ごとをお願いしている『戸別募金』が約2億9,229万円(全体の約56.8%)、地元商店や企業を訪問、またはダイレクトメール等をお願いする『法人募金』が約1億3,401万円(全体の約26.1%)となり、これらが募金実績全体の約8割を占めている。

その他、駅前・デパートやスーパーの入口、商店街等で呼びかける『街頭募金』が838万円(全体の約1.6%)、小・中・高等学校の児童・生徒の皆さんに協力願う『学校募金』で約643万円(全体の約1.3%)、また企業や団体、官公庁等の職場で呼びかけを行う『職域募金』として約1,419万円(全体の約2.8%)、様々なチャリティイベントを通じて、寄せられた『興行募金』が約370万円(全体の約0.7%)となり、これら以外の募金として、赤い羽根の募金箱による協力や篤志募金などで約5,519万円(全体の約10.7%)、すべてを合計すると一般募金の総額は5億1,422万2,339円(本会扱い分3,057万8,451円含)となった。

▼過去3年間における募金方法別実績の推移

(単位:千円)

年度	戸別	街頭	法人	学校	職域	興行	その他	合計
2	292,298	8,381	134,013	6,439	14,192	3,705	55,194	514,222
元	307,460	18,736	126,330	6,676	14,104	16,153	53,193	542,652
30	315,925	17,138	122,351	6,887	14,891	15,424	51,854	544,473

これら募金実績にもとづいた助成実績については、景気・雇用情勢の悪化により、社会自立を目指す障がい者の働く場(社会的就労という機能をもつ福祉施設や地域共同作業所など)に深刻な影響を及ぼしている状況を憂慮し、作業機器・設備や搬送車両などの整備事業支援に重点をおきつつ、その他、身寄りのない子どもたちや母子・父子家庭への支援、寝たきりの高齢者への食事サービス、独居高齢者宅の声かけ訪問や在宅障がい者などの移送サービス等、道内各地域できめ細かく実施される福祉活動に対し、総額で3億8,149万4,925円の助成を行った。

(2)歳末たすけあい募金の計画・実績・助成

道民が新しい年をあたたかい心で迎えられよう、12月1日より12月31日まで実施している歳末たすけあい募金の計画(目標額)は、要支援世帯(独居高齢者、低所得世帯など)へ年末見舞金を贈呈する事業を中心に、各種在宅福祉サービス等の計画を積み上げ、市町村ごとに展開される『地域歳末計画』分として1億9,864万円(歳末たすけあい実施要項に基づき、社会福祉協議会、民生委員協議会等と連携の上、共同募金委員会の「審査委員会若しくはそれにかかわる機関」で原案作成のもの)の用途計画(目標額)を設定した。

『地域歳末』の用途計画は、高齢者を対象とした事業;7,261万9,200円、障がい児者を対象とした事業;2,133万1,000円、児童青少年を対象とした事業;1,665万4,000円のほか、住民全般を対象とした事業;8,803万5,800円から構成されている。

募金実績としては、道内各地で歳末たすけあい運動を展開した結果、共同募金委員会が窓口となって取り扱う『地域歳末』が、1億6,687万9,550円と、前年度より約2,104万円の減、一世帯平均60円の実績となった。これに道共募本部が窓口となって取り扱う『道民歳末』の1,735万5,210円を加え、歳末たすけあい募金実績は1億8,423万4,760円となった。

地域歳末助成として総額1億7,084万7,836円、道民歳末助成として総額1,423万6,000円を、生活困窮世帯・長期療養患者・災害遺児家庭、道内児童福祉施設、不登校児支援施設等への見舞金をはじめ、地域における高齢者や障がい者世帯への在宅福祉サービス事業費として助成を行った。

Ⅱ 本年度の主な広報事業

共同募金運動啓発キャンペーンとして、北海道を本拠地として活躍する6つのスポーツチーム「北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・エスポラーダ北海道・レバンガ北海道・ロコソラーレ・北海道銀行フォルティウス」の監督や選手、さらには北海道出身及び北海道にゆかりのある「漫画家(21名)」からも、「赤い羽根のサポーター」として宣言いただき、様々なご協力をいただいた。また、若年層に向けた取り組みとして、札幌市に本社を置くクリプトン・フューチャー・メディア(株)の協力により、札幌発のバーチャル・シンガーである「初音ミク」、あるいは、(株)ブシロード及び(株)ブシロードクリエイティブの協力により、「バンドリ！ ガールズバンドパーティ！」とのコラボレーション企画を実施し、様々な募金啓発活動を行ったほか、新たな取り組みとして、10月に映画公開となった“劇場版「鬼滅の刃」無限列車編”とのタイアップでの募金活動を行い、若年層に向けた新たな取り組みを開始した。

そのほか、市町村共同募金委員会と連携し、寄付金付グッズの開発・普及(インターネット・SNS等を活用)や、企業の社会貢献活動との連携促進、チャリティーイベント等への取り組みや新たな募金方法の検討や普及など、多方面への積極的なアプローチをしながら、募金増進につなげるための様々な取り組みを進めた。

1 「赤い羽根サポーター宣言」事業

(1)道内スポーツチームとのタイアップ

北海道で活躍している6つのスポーツチームが赤い羽根のサポーターであることを宣言し、共同募金運動への啓発、募金増強に向けたキャンペーン活動を展開した。また、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまでどおりの募金活動への協力が叶わないことから、クラウドファンディングサイトを利用しての缶バッジやクリアファイル、あるいは直筆サイン入りのレプリカユニフォームやシューズ等による支援金の協力のお願も行った。

【各チームからの協力内容】

①北海道日本ハムファイターズ

・募金活動～選手や監督による勝利・ヒット募金(ヒット1本つき 2,000 円募金)や勝利募金(1勝につき 2,000 円募金)のほか、プレミアム募金として、盗塁募金(盗塁1回につきさらに 1,000 円募金)やホームラン募金(ホームラン1本につきさらに 1,000 円募金)や零封募金(チームの完封勝利につきさらに 1,000 円募金)の実施

◎募金総額～1,501,000円

【内訳】

・栗山英樹監督による

・勝利募金 106,000円(53勝)

・零封勝利 4,000円(4勝) 計 110,000円

・中田 翔選手による

・ヒット募金 210,000円(105本)

- ・プレミアム募金(ホームラン1本につき) 31,000円(31本)
計 241,000円
- ・中島卓也選手による
 - ・ヒット募金 64,000円(32本)
 - ・プレミアム募金(犠打1回成功につき) 10,000円(10回)
計 74,000円
- ・西川遥輝選手による
 - ・ヒット募金 258,000円(129本)
 - ・プレミアム募金(盗塁1回成功につき) 42,000円(42回)
計 300,000円
- ・近藤健介選手による
 - ・ヒット募金 252,000円(126本)
 - ・プレミアム募金(1打点につき) 60,000円(60回)
計 312,000円
- ・大田健介選手による
 - ・ヒット募金 250,000円(125本)
 - ・プレミアム募金(ホームラン1本につき) 14,000円(14本)
計 264,000円
- ・球団からの募金 200,000円

- ・募金活動～ホームゲーム会場(10/10・11)での募金活動場所の提供
- ・イベント～ファイターズファンフェスティバル(12/6)での募金贈呈
- ・グッズ作成～ポスター、缶バッジ、クリアファイル、アクリルスタンドなど
- ・素材提供～本会ホームページ、運動資材など

②北海道コンサドーレ札幌

- ・募金活動～勝ち点募金(勝ち点1につき 3,000 円の募金)やゴール募金(1ゴールにつき 3,000 円の募金)の実施や選手の私物によるチャリティーオークションの実施

◎募金総額～258,000円

【内訳】

- ・勝ち点募金 117,000円(39点)
- ・ゴール募金 141,000円(47ゴール)

③エスポラーダ北海道・エスポラーダ北海道イルネーヴェ

- ・募金活動～勝利募金(1勝につき1,000円募金)や1試合(マッチデイ)限定でのゴール募金(1ゴールにつき5,000円募金)の実施(継続中)

④レバンガ北海道

- ・募金活動～勝ち点募金(1勝につき 1,000 円募金)の実施や選手の私物によるチャリティーオークションの実施

- ・募金活動～試合会場での募金活動(継続中)
- ・グッズ作成～ポスター、クリアファイル、アクリルスタンドなど
- ・素材提供～本会ホームページや運動資材など

⑤ロコソラーレ

- ・勝利募金の実施(1勝につき2,000円募金)の実施(継続中)
- ・グッズ作成～ポスター、クリアファイルなど
- ・素材提供～本会ホームページや運動資材など

⑥北海道銀行フォルティウス

- ・勝利募金の実施(1勝につき2,000円募金)の実施(継続中)
 - ・グッズ作成～ポスター、クリアファイルなど
 - ・素材提供～本会ホームページや運動資材など

(2)漫画家とのタイアップ

北海道にゆかりのある漫画家が赤い羽根のサポーターであることを宣言し、共同募金運動への啓発、募金増強に向けたキャンペーン活動を展開した。また道民の理解と協力を得るため、啓発イベント等を開催した。

今年はコロナ禍の影響により、「“赤い羽根”まんが祭り」を中止し、インターネットによるチャリティーオークションのみ実施した。

①インターネットチャリティーオークションの実施

中央共同募金会の協力により、漫画家の作品をYahoo!インターネットオークション(ヤフオク!)に、漫画家のいがらしゆみこ先生ほか漫画家の作品を出品し、募金の協力を求めた。

◎出品期間;令和3年2月17日～同年3月10日

・・・全24作品、落札額～1,955,502円

②「piapro」とのタイアップ～初音ミク「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクト

若年層に共同募金への興味や関心をもってもらう事を目的として、昨年に引き続き、クリプトン・フューチャー・メディア(株)が運営する各種コンテンツ投稿・交流サイト「piapro」と、本会及び札幌市共同募金委員会との共同企画により、「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクトを実施した。具体的には、バーチャル・シンガー「初音ミク」等のキャラクター使用したポスター等に使用するオリジナルイラストの募集と、同キャラクターのボーカロイドソフトを使用した共同募金運動応援キャンペーンソングの楽曲の一般公募を行った。採用作品については本年度の共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(ポスター、クリアファイル、紙製組立式募金箱、しおり、缶バッジ、スマホ用音楽カードSONOCA、CM動画など)として活用した。

①イラストパネル展の開催

と き:(1回目)令和2年10月22日(木)~24日(土)

(2回目)令和2年12月17日(木)~19日(土)

ところ:札幌市・地下歩行広場 チ・カ・ホ イベントスペース

内 容:一般公募により寄せられたイラストを、期間限定でパネル展示するとともに、会場内のモニターで応援キャンペーンソング(ミュージックビデオ)を紹介した。また、会場内に「赤い羽根キャンペーン」として募金ブースを設けるなど赤い羽根共同募金のPR及び募金活動を行った。

3 “劇場版「鬼滅の刃」無限列車編”とのタイアップ事業

共同募金運動啓発及び募金推進として、子どもや子育て世代に対し共同募金に関心を持っていただくための取り組みとして、“劇場版「鬼滅の刃」無限列車編”とタイアップを行った。

オリジナルのイラストを基に本年度の共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(ポスター、クリアファイルなど)を制作し活用した。

4 株式会社ブシロードの協力による各種タイアップ事業

共同募金運動啓発及び募金推進として、若い世代の方々へ共同募金に関心を持っていただくための取り組みとして、(株)ブシロード及び(株)ブシロードクリエイティブの協力により、「バンドリ! ガールズバンドパーティ!」のイラストを基に共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(クリアファイル、アクリルスタンドキーホルダー、缶バッジ等)を制作し、共同募金PR活動に活用した。

5 ヒカルさん×村上隆さんの協力によるコラボ事業

今年度新たに YouTuber ヒカルさんとアーティスト村上隆さんとのコラボレーション企画により、数量限定で販売された T シャツ 2 種の売上 2,172 万円を赤い羽根共同募金に寄付いただけることとなった。

6 各種イベント開催に伴う募金ブース設置・PR活動

道内一部の地域のイベント会場などにおいて、「赤い羽根募金啓発キャンペーン」として募金ブースを設け、オリジナルグッズなどを活用しながら赤い羽根共同募金のPR・募金活動を行った。

7 飲料メーカーとのタイアップ事業

(1)赤い羽根「自動販売機」の道内各市町村における設置推進

年間を通じての募金並びに運動啓発が可能な「赤い羽根の清涼飲料水自動販売

機」について、NPO法人並びに飲料メーカーと連携を図り、赤い羽根のロゴマーク入りの自動販売機を道内各地へ設置した。

◎実施概況～18市31町2村に207台設置

寄付金総額～3,036,632円(令和元年10月～令和2年11月)

(2) 赤い羽根「寄付金付宅配飲料」の道内各市町村における導入推進

年間を通じての募金並びに運動啓発が可能な「赤い羽根の寄付金付宅配飲料」について、飲料メーカー(1社)と連携を図り、導入推進を行った。

◎実施概況～6市5町、21件

寄付金総額～11,754円(令和元年10月～令和2年11月)

8 ポスターの掲出

関係機関や協力団体の所在する建物内、公共交通機関(JR・地下鉄・市電・バスなど)の各駅や車両などに掲出されたほか、地域のお祭りやスポーツイベントなどでの啓発用としても活用した。

また、道内の社会福祉施設や行政、札幌に本社があり道内に支社がある企業や国の出先機関などに対して、それぞれ所在する地域でのポスターの掲出などへの協力依頼を行った。特に、イオン北海道、マックスバリュ北海道、オストジャパングループ、ツルハホールディングス、真如苑等の道内系列各店においては、ポスターの掲出とあわせて店内での募金箱の設置などについても協力をいただいた。

9 マスコミ等各種媒体を利用した広報事業

(1) 新聞媒体を活用した広報の実施

広報媒体を活用したPR活動の実践として、新聞広告を掲出した。特に、共同募金運動がスタートする10月1日に掲載することで、道民の運動への関心を高め、道内各地域における募金活動をバックアップした。

(2) 道内マスコミ・記者クラブなどへの資料配布

共同募金運動開始時及び各種イベント開催時などに、道民に対する周知を行うとともに本会活動に対しての理解を得るため、記者クラブなどに対して報道向け資料を配布するとともに、個々の新聞社に対しては、取材要請、記事掲載要請を行った。

(3) NHK並びに民間放送局の協力による広報

道民への共同募金運動の理解と協力を得るため、民放各局ではテレビスポット及びラジオスポットの放送を10月から実施し、NHKにも胸に羽根を付けていただくなど協力の呼びかけを行った。

(4) 街頭大型液晶ビジョンによる広報

日本パブリックビューイング協議会(JPVA)に加盟の(株)メガ・コーポレーション及び(株)ラ・ウィルの協力により、メガ・ビジョン4プラ【4丁目プラザビル壁面】、札幌駅前ビジョン【札幌駅前合同ビル壁面】、HILOSHI【地下鉄南北戦大通駅改札前】、狸ビジョン【札幌狸小路商店街内街頭ビジョン】、また、(株)ホワイトカンパニーの協力により、サブローTV【札幌すすきの交差点壁面】を媒体として、共同募金のテレビスポットの放映を10月1日から実施した。

10 各種啓発イベントの実施・関係機関団体への情報提供

各種広報イベントを実施し、参加者の実体験やマスコミ各社の取材協力によって広く道民に共同募金運動への理解・協力を訴えた。その中で、例年開催されている「北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと」、「赤い羽根小曲邦舞の会」、「赤い羽根」テニール北の甲子園大会北海道知事Cup等の人が多く集まる催し物については、コロナ禍の影響を受けて、中止となった。

(1) 北海道社会福祉協議会広報誌との連携・市町村への働きかけ

北海道社会福祉協議会発行の「明るい社会」に共同募金運動の意義、助成内容、道内の取り組みなどについての記事を掲載いただいた。

また、道内各市町村広報担当部課宛てに共同募金運動PRに対する協力依頼と広報誌への掲載についての要請を行った。

11 広報先発行事の実施

(1) 赤い羽根空の第一便伝達式並びに名士による街頭募金

今年度はコロナ禍の影響により、中止となったが、10月1日の共同募金運動の開始にあたり、北海道知事(代理)及び札幌市長(代理)に表敬訪問し、それぞれに厚生労働大臣メッセージの伝達を行った。

(2) 道内市町村での街頭啓発活動等の実施

各市町村での実情に合わせて、街頭募金・啓発活動を実施するとともに、募金及び広報活動について企業・商店等の参加と協力を促すため、百貨店・スーパーマーケット・商店事業所等に募金箱の設置や協力をいただいた。

12 市町村域での広報(募金資材の提供・広報資材の貸出)

募金運動推進に必要とされる運動資材(赤い羽根、募金箱など)やPRのための広報資材を共同募金委員会や関係機関・団体などに提供し、地域住民や企業、報道機関などへの積極的な情報提供に活用した。

13 ホームページ等による情報提供

道民に向けた情報提供チャンネルとして、ホームページやフェイスブック、ツイッターにおいて共同募金関連ニュースや、各種イベント情報、助成金のお知らせ、寄付者に向けた“ありがとうメッセージ”、また目標額や実績額などの公表を行った。また、災害に関する情報(東日本大震災などに伴う災害など準備金、義援金、支援金など)の他、道内スポーツチームなどの各種タイアップ事業に係るイベント活動や協力状況などを特設サイトへ掲載し、周知に努めた。

Ⅲ 顕彰の実施

1 本会会長表彰

本会の顕彰規程に基づいた会長表彰について、現在まで10年以上継続して共同募金運動に協力をいただいている方のうち特に功績のあった「奉仕者(個人)」、「地区・団体」、「従事者(共同募金役職員)」や、現在まで5年以上継続して3万円または10万円以上寄附実績のあった「個人・法人・団体」、また現在まで5年以上継続して共同募金運動に協力をいただいている学校のうち、特に功績のあった学校等に対し、表彰状並びに記念品を贈呈し、その功績を讃えた。

◎総受彰者:220件

- ・永年勤続奉仕者 171名
- ・優秀地区・団体 32団体
- ・永年勤続従事者 8名
- ・高額寄付者 2件(1個人・1法人)
- ・優秀学校 7校

2 中央共同募金会会長表彰

中央共同募金会における顕彰規程に基づいた会長表彰について、奉仕功労者(年齢が概ね65歳以上の方で、20年以上奉仕(継続していなくても可)され、過去に道共募会長表彰(但し、特別顕彰及び功績者感謝はこれに含まない)を受けており、現在も活躍中のもの)、優秀地区・団体(過去10年間にわたり、実績額の世帯平均額が、北海道平均額を上回り、かつ全道の世帯平均を上回っている共募委員会、従事功労者(共募委員会)の職員の方で、在職15年以上、年齢50歳以上の共同募金運動に従事されたもの)等に対し、表彰状並びに記念品を贈呈し、その功績を讃えた。

◎中央共同募金会会長表彰総受彰者:14件

- ・奉仕功労者～8名
- ・優秀地区・団体～3団体
- ・従事功労者～3名

③ 高額寄付者に対する厚生労働大臣感謝状

高額寄付者(個人100万円以上500万円未満、法人・団体300万円以上1,000万円未満)に対する感謝では、全市町村共同募金委員会あてに推薦依頼を行った。

IV 緊急支援及び災害対応

① 災害見舞金の助成

道内各市町村における小規模な災害について、全壊・半壊など被害にあった方や災害事故により亡くなった方(世帯)に対し、災害見舞金(死亡～1件(世帯)2万円、全壊～2万円、半壊～1万円)を贈呈した。

◎令和3年3月現在:113件・188万円

② 災害被災地(道内外)への支援

今年度は、特に大雨による災害により、土砂災害・河川氾濫等それぞれの地域に多大な損害を被り、災害救助法が適用されたなどのことにより、共同募金会では国内(北海道から沖縄まで)における被災者救援を目的とした義援金募集の周知及び受付を行った。

県名	名称	受付期間	義援金 受入状況(円)
熊本県	熊本県南豪雨義援金	7/8～ R3.3/31	集計中
福岡県	令和2年7月福岡県豪雨災害義援金	7/10～ R3.3/31	集計中
鹿児島県	令和2年7月豪雨災害義援金	7/13～ 12/28	集計中
大分県	令和2年7月大分県豪雨災害義援金	7/13～ 12/28	《本会扱い》 0 《全国規模》 259,000,655 【R3/2/26】
岐阜県	令和2年7月岐阜県豪雨災害義援金	7/14～ 9/30	集計中

島根県	令和2年7月島根県豪雨災害義援金	7/22～ 9/30	《本会扱い》 0 《全国規模》 32,296,029 【R2/11/30】
佐賀県	令和2年7月佐賀県豪雨災害義援金	7/21～ 12/28	《本会扱い》 6,140 《全国規模》 9,459,552 【R2/10/2】
長野県	令和2年7月豪雨災害義援金	7/27～ 9/30	《本会扱い》 0 《全国規模》 12,141,236 【R2/11/10】
山形県	令和2年7月山形県豪雨災害義援金	8/5～ 12/28	《本会扱い》 0 《全国規模》 120,174,047 【R2/12/31】
東京都	令和2年7月豪雨災害義援金 (中央共募扱い)	7/13～ R3.3/31	《本会扱い》 2,741,009 《全国規模》 268,606,153 【R2/10/31】
福島県	令和3年2月福島県沖地震災害義援金	R3.2/24～ 5/31	集計中

V 各種民間社会福祉資金の総合調整

1 共同募金以外の特定指定寄付金の受け入れ並びに助成について

都道府県の共同募金会が運用を任されている「共同募金以外の特定・指定寄付金制度」は、一定の要件を満たすことを条件に、寄付者が特定の助成を受ける者（社会福祉法人等の経営する福祉施設）と寄付金の用途を指定して都道府県共同募金会を通じての寄付が可能となる制度。

寄付金の受け入れ並びに助成にあたっては、本会並びに中央共同募金会での審査が必要とされ、個別案件ごとに用途内容の緊急性・確実性、寄付者と助成を受ける者との関係（身分関係や契約関係など）について審査されるが、承認となった場合、寄付者には共同募金への寄付同様、税制上の優遇措置が適用となる。

寄付金の用途については施設建設資金や建設時の借入金の償還、車両の購入など、施設運営にあたって緊急かつ重要なものに活用されている。

本年度は、2法人から1億9,124万433円の寄付金を受け入れ、1社会福祉法人に対し、1億8,112万8,028円の助成を行った。

② 寄託寄付金の受け入れ並びに助成について

共同募金以外の寄付金として本会に寄せられる「寄託寄付金」については、企業やその社員が全社的な取り組みにより売り上げの一部や有志による寄付金を本会に寄託し、これを受けた本会がその助成調整能力をもって助成先を寄付者に提案することにより、寄付者の信託にこたえ、地域における社会貢献への取り組みを側面から支援するものである。

本年度については9件の寄付者から計126万8,202円が寄せられ、道内8福祉施設・団体等に助成を行い、寄付者の希望によりそれぞれ施設利用者の直接処遇に関わる機器や備品の購入に充てられた。

③ 公益信託助成金の助成について

本会が受託者となり、助成事業を実施している3つの公益信託について、令和2年度における各公益信託財産の運用果実により4個人3法人2団体に対し、総額100万円の助成を行った。

《助成内訳》

i) グレイパワー前田基金

高齢者の生きがい事業として、2団体に対して、計60万円を助成した。

ii) 谷本康・昌平養護施設児童就学援助基金

養護施設児童の入学金援助事業として、2施設の4人の児童に対して、計30万円を助成した。

iii) 荒木身体障がい者スポーツ基金

身体障がい者のスポーツ活動事業として、1団体に対して10万円を助成した。

④ 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業への協力

中央競馬馬主社会福祉財団より業務委託を受けている同財団による福祉施設等の整備資金助成事業について、令和2年7月13日、本会推薦委員会(書面審議)を行い、札幌・函館馬主協会にそれぞれ推薦をした結果、道内32施設5,423万円の助成が決定し、札幌・函館それぞれの馬主協会を通じ、助成金の目録が伝達された。

⑤ 日本テレビ24時間チャリティー委員会への業務協力

8月に行われた「日本テレビ系24時間テレビチャリティー委員会」に申請のあった入浴乾燥車、リフト車両等北海道内分の事業について、札幌テレビ放送と調整の上、推薦業務を行った。

Ⅶ 会務の運営(法人運営・専門委員会)

① 法人運営

(1) 理事会・評議員会の開催(書面)

①理事会

1) 令和2年度第1回理事会

と き: 令和2年6月10日

内 容: 令和元年度事業報告及び決算報告、令和2年度共同募金目標額、理事候補者選定、評議員候補者の選定、本会専門委員会委員の選任、評議員会の召集と議事内容等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

2) 令和2年度第2回理事会

と き: 令和3年3月22日

内 容: 令和2年度共同募金配分、令和3年度事業計画・収支予算、諸規程の改正、役員等賠償責任保険契約、理事候補者選定、評議員候補者の選定、配分委員会委員の補欠選任、評議員会の召集と議事内容等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

②評議員会

1) 令和2年度第1回評議員会

と き: 令和2年6月25日

内 容: 令和元年度事業報告及び決算報告、令和2年度共同募金目標額、役員選任等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

1) 令和2年度第2回評議員会

と き: 令和3年3月30日

内 容: 令和2年度共同募金配分、令和3年度事業計画・収支予算、理事補欠選任、配分委員会委員の補欠選任等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

(2) 評議員選任・解任委員会の開催

本会評議員の選任について協議するため、次のとおり評議員選任・解任委員会を開催した。

(第1回)

と き: 令和2年6月11日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 評議員の選任について付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

(第2回)

と き: 令和3年3月22日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 評議員の選任について付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

(3) 正副会長会議の開催

本会事業の執行並びに会務運営について協議するため、次のとおり正副会長会議を開催した。

(第1回-書面-)

と き: 令和2年5月25日

内 容: 第1回理事会・評議員会の議事や各種会議等開催日程について、それぞれ協議がなされた。

(第2回)

と き: 令和2年11月20日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 令和2年度上半期事業実施状況や令和3年度事業計画骨子等について、それぞれ協議がなされた。

(4) 監事(監事監査/外部監査)の実施

本会業務の執行状況及び法人財産の状況等について監査するため、次のとおり監事監査を開催し、本会における事業運営状況並びに予算執行、会計経理事務の処理状況等について監査の結果、いずれも適正に処理されていると認められた。

さらに、自主的に公認会計士事務所による外部監査を令和2年5月13日、令和3年3月15日に札幌市・道民活動振興センター(かでの2・7)で受けた。

【監事監査】

(第1回)

と き: 令和2年5月18日

ところ: 札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容: 令和元年度事業及び決算報告についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

(第2回)

と き: 令和2年11月19日

ところ: 札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容: 令和2年度10月期事業及び予算執行状況についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

①監査事項

- ・令和2年度10月期事業報告について
- ・令和2年度10月期予算執行状況について

(第3回)

と き: 令和3年3月16日

ところ: 札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容: 令和2年度事業実施状況及び決算見込、令和3年度事業計画及び収支予算等についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

①監査事項

- ・令和2年度事業実施状況について
- ・令和2年度決算見込について

- ・令和3年度事業計画について
- ・令和3年度収支予算について

2 専門委員会の開催

(1) 配分委員会の開催(書面)

共同募金会が取扱う寄付金の助成計画の立案並びに申請事業に係る助成審査、答申案の策定を執り行う期間として、本会会長が委嘱した委員10名により構成する「配分委員会」(社会福祉法第115条に規定)を下記のとおり開催し、民間の特質を生かし弾力的かつ即応性のある助成を実現するべく、今後の助成方針並びに助成対象事業の採否等についての検討協議を行った。

(第1回)

と き: 令和2年6月1日

内 容: 先進的・開拓的福祉活動支援事業のうち一般公募受付による一赤い羽根共同募金助成金一令和2年度第1次助成、令和2年度共同募金目標額、令和2年度実施事業に係る追加配分決定、本会に寄託された寄付金の配分等について、協議がなされた。

(第2回)

と き: 令和2年11月26日

内 容: 先進的・開拓的福祉活動支援事業のうち一般公募受付による一赤い羽根共同募金助成金一令和2年度第2次助成、令和3年度共同募金助成方針、歳末たすけあい募金による助成等について協議がなされた。

(第3回)

と き: 令和3年3月8日

内 容: 一般募金や歳末募金による令和3年度実施事業に係る配分決定額をはじめ、共同募金以外の本会に寄託された寄付金の配分などについて協議がなされた。

(2) 広報企画委員会の開催(書面)

北海道における共同募金運動の広報活動及び広報に関する各種行事の計画・立案を行うことを目的として、本会会長が委嘱した委員4名により構成する広報企画委員会を下記のとおり開催した。

(第1回)

と き: 令和2年6月17日

内 容: 新聞記事掲載内容(結果報告)、piapro とのコラボプロジェクト投稿作品による採用イラストの選考、令和2年度共同募金運動資材等について、協議がなされた。

(第2回)

と き:令和2年9月23日

内 容:新聞記事掲載内容(運動開始)について、協議がなされた。

(3) 共同募金運動推進対策委員会の開催(オンライン)

共同募金運動の円滑な推進を図るため、共同募金委員会事務局長のうちから本
会会長が委嘱した委員9名により構成する推進対策委員会を下記のとおり開催し、
募金計画等に関する事項を協議した。

(第1回)

と き:令和2年11月30日

ところ:札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内容:令和3年度における共同募金事業実施計画の骨子(案)、共同募金使途
(助成)方針などについて、協議がなされた。

① 報告事項

- ・令和2年度共同募金中間実績について
- ・新型コロナウイルス感染症の影響下での共同募金運動の推進について

② 協議事項

- ・令和3年度共同募金事業実施計画の骨子(案)について
- ・令和3年度市町村共募関連の各種研修会開催概要(案)について
- ・令和3年度共同募金使途(助成)方針について

(4) 民間社会福祉資金要望事業推薦委員会の開催(書面)

民間社会福祉事業の推進を図るため、本会が業務委託を受けている中央競馬馬
主社会福祉財団助成金の要望事業内容を審査し、推薦することを目的として、本会
会長が委嘱した委員7名により構成する民間社会福祉資金要望推薦委員会を下記
のとおり開催した。

(第1回)

と き:令和2年7月13日

内容:令和2年度中央競馬馬主社会福祉財団助成金申請事業計画の推薦に
ついて、協議がなされた。

(5) 歳末たすけあい運動推進会議の開催

「歳末たすけあい運動」実施要項に基づき、北海道内における歳末たすけあい運
動の円滑な実施を図るため、運動の推進方策並びに寄付金の助成指針等につい
て検討並びに協議を行うことを目的として、歳末たすけあい運動の実施主体、後援
団体構成員から選出した委員5名により構成する歳末たすけあい運動推進会議を
下記のとおり開催した。

(第1回)

と き:令和2年10月26日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:令和元年度歳末たすけあい収入・助成状況、歳末たすけあい運動実施要項(案)、令和2年度道民歳末たすけあい助成概要(案)について、協議がなされた。

(第2回-書面-)

と き:令和2年12月22日

内 容:道民歳末たすけあいの第一次助成について協議がなされた。

①報告事項

・令和2年度道民歳末たすけあいの収入状況について

②協議事項

・令和2年度道民歳末たすけあいの第1次助成について

(第3回-書面-)

と き:令和3年2月25日

内容:道民歳末たすけあいの第二次助成及び地域歳末たすけあい助成について協議がなされた。

①報告事項

・令和2年度道民歳末たすけあいの収入状況について

・令和2年度地域歳末たすけあいの収入状況について

②協議事項

・令和2年度道民歳末たすけあいの第2次助成について

・令和2年度地域歳末たすけあいの助成について

(6) 公益信託運営委員会の開催

本会が受託者となっている4つの公益信託について、信託財産の適正な運営を図るため、また助成を要望する個人・団体・施設等から提出された計画を審査し、推薦・協議することを目的に開催した。

(第1回-書面-)

と き:令和2年6月5日

内容:令和元年度事業報告及び収支決算などについて、審議がなされた。

③ 共同募金委員会との連携強化と運営整備の促進

(1) 地方・市共同募金委員会事務局長連絡協議会の開催(オンライン)

各共同募金委員会が緊密な連絡のもとに協調した運動を推進するため、事務局長を対象とした連絡協議会を開催した。

と き:令和2年12月8日

内 容:

①報告事項

・令和2年度共同募金中間実績について

・新型コロナウイルス感染症の影響下での共同募金運動の推進について

②協議事項

- ・令和3年度共同募金事業計画について
- ・令和3年度共同募金使途(助成)方針について

(2) 道内外への研修・連絡会、その他会合等

①道内共同募金委員会などより派遣要請のあった会議、関係機関団体主催行事などへの出席

下記の会議等に本会役職員を派遣し、運動のPRと強化に努めた。

開催期日	開催地	会議(行事)名
7月1日	釧路市	釧路地方共同募金委員会理事会
7月7日	上ノ国町	役員研修会及びパークゴルフ交流会
8月3日	旭川市	上川地方社協共募合同会議
8月17日	東神楽町	東神楽町社協役員等研修会
8月26日	帯広市	帯広市役員等研修会
8月27日	中標津町	根室地方共募会議
9月2・3・7日	札幌市	令和2年度共募運動に関するオンライン情報交換会
9月4日	岩見沢市	空知地方共募研修会
9月14日	遠軽町	令和2年度遠軽地区共同募金委員会大口募金協力員会議
9月16日	津別町	津別町共同募金委員会研修会
9月18日	釧路市	釧路地区共同募金担当者研修会
10月15日	江差町	桧山地方共募役員研修会
10月10・11日	札幌市	北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動)
10月17・18日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
10月21日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
10月24・25日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
11月1日	札幌市	エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動)
12月12・13日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
1月2・3日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
1月17日	札幌市	エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動)
1月23・24日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
1月24日	札幌市	エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動)
1月30・31日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
2月13・14日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)
3月6・7日	札幌市	レバンガ北海道公式戦(募金PR活動)

② 全国・他都府県関係諸会議への参加

中央共同募金会及び東北・北海道ブロック、他都府県等で開催の下記の関係諸会議に役職員を派遣し、事業の研究に努めた。

開催期日	開催地	会議(行事)名
5月25日	東京都	令和2年度共募運動に関する意見交換会(中央)

6月25日	東京都	令和2年度共募運動に関する意見交換会(中央)
7月8日	東京都	意見交換会・募金編(中央)
7月15日	東京都	常務理事・事務局長会議(中央)
9月2日	東京都	意見交換会・助成編(中央)
9月9日	青森県	北海道・東北ブロック社協・共募事務局長会議分散会(オンライン)
9月29日	東京都	共募運動開始オンライン集会(中央)
11月29日	宮城県	北海道・東北ブロック業務主幹会議(オンライン)
12月21日	東京都	with コロナの時代を支える社会貢献セミナー(中央)

③ 関係機関・団体との連絡協調及び共同募金運動への協力

そのほか関係機関・団体との相談業務や、慶弔の時に於ける祝電送付等、連絡の強化に努めた。

VIII 新型コロナウイルス感染拡大への対応

1 新型コロナウイルス感染拡大に伴う子どもと家族の緊急支援の

ための全国キャンペーンへの取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、中央共同募金会ならびに都道府県共同募金会とともに、「赤い羽根 子どもと家族の緊急支援 全国キャンペーン」を協働実施し、課題解決に取り組む団体への助成と寄付金の募集を行った。

本会あてには、中央共募を経由するなどして、1,194,421円もの寄付が寄せられ、また、中央共募からはトータルで7,400,000円の資金支援を受けることができ、これにより、計28件、7,856,801円の助成を行うことができた。

2 コロナ禍のもとでの共同募金運動に向けた取り組み

感染症の拡がりや各種募金活動にも制限をもたらすであろうことを念頭に、地方・市町村共同募金委員会に向けて、衛生配慮に係るガイドラインや活動実施にあたっての留意事項を発出しながら、本年度の地域での共募運動展開の見通しなどについて調査を実施し、情報収集と意見・質問の集約、共有をはかるとともに、オンラインでの意見交換会を開催し、全道での情報交換を行った。

また、市町村共同募金委員会への支援の一環として事務費の追加交付と、衛生用品(フェイスシールド)の配付を実施した。

Ⅸ 公告・公表等

1 公告—目標額の届出、運動実績の公表

共同募金目標額については、全道的視野で立案する道地域使途計画並びに市町村毎の地域で立案される市町村地域使途計画を本会設置の配分委員会の答申に基づき、理事会・評議員会で審議のうえ承認された。

そのあと、中央共同募金会へ届出(報告)を行うとともに、本会掲示場に掲示をし、全道版での新聞広告や北海道社会福祉協議会発行の福祉情報紙、また各共募委員会で発行の広報紙等に目標額や実績額、助成(支援)先の紹介等を掲載し、広く道民に公表した。